

人間関係がうまくいかない、勉強が分からない、教室に居場所がない……

なぜ、あの子が学びに入れたのか

—学び合いを促進する教師の関わり—

分からないことを「分からない」と言えることでグループに入れた

話をしたことがなかった人とも話せるようになった

みんなとの距離が縮まった

学び合う授業の中で、
聞こえてきた声

子どもたち
の声



教師たち
の声

教師が控えめになると、子どもが積極的になった

研究協議が、子どもの頑張る姿をみんなで共有する場になった

子どもと全教職員で同じことに取り組んで、みんなで成長できる楽しさを味わった

授業が変わり、子どもが変わり、学校が変わる

教師の関わりとは？

平成24年2月
岡山県総合教育センター

教師が「教える」授業から 子どもが「学ぶ」授業へ —子どもを「育てる」教師の関わり—

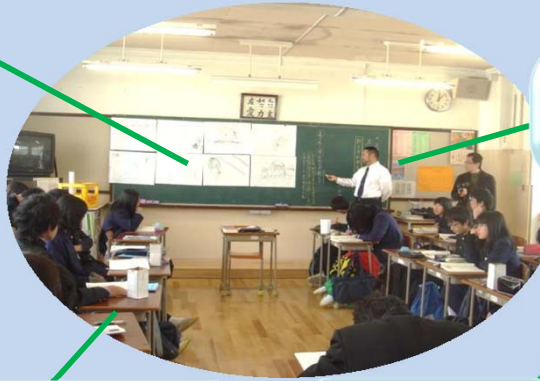
「居場所」をつくる

課題を媒介して
関わりを生み出す

教卓は子どもと同じ机を
使い、教師も同じ視線の
高さで聴き合い、話し合う



コの字型で「聴き合う」
座席配置



- 落ち着いた声のトーン
- つぶやきを捨てる
- 子どもの発言は他の子どもにつなぐ「どう思う？」



声をかけたら、
信じて「待つ」

POINT

教師も子どもも互いの顔が見える中で、「聴く」ことを意識し、互いの存在を感じ合える居場所づくりをします。学びに入りにくい子どもには、指導をしつつも自分から学びに入るまで「待つ」姿勢が大切です。

自己存在感
を与える

関わりを「援助」する

- 個人の学びや個人とグループ、グループ間の関わり合いを見取る
- 必要に応じて、子ども同士をつなぐ

一つのグループの関わり
合いに焦点を当てて観察
する

関わりを生み出せるよう
机を移動する



分からない時には友達
に聞き、聞かれた時には
分かるまで説明するよう
に促す

- 隣との間に障害物（筆箱等）を置かない
- 机を付ける

共感的
人間関係を
育成する

POINT

ペアやグループなどで、相互に交流できる時間を設定します。一人一人が自分の学びを進めながら、他者と意見を交わす、教え合うなどを選択し、主体的な学びが進められるよう、教師は子ども同士の関わりを援助し、学び合いを促進します。

自己決定の
場を与える

教師が学び合う場として、
計画的に、授業公開と研究協
議を実施する

写真や動画で記録し、
一人一人の表情やグ
ループの動きを確認
する

一人一人の学びとグ
ループ内の関わりを
記録する観察シート
を利用する



子どもの学びの姿から教材や課
題の適切さを振り返る

教材研究では子どもの
実態から課題を工夫する



「あるがまま」を語り合う

POINT

授業公開や研究協議では、個々の子どもの学びや関わり合いの状態を見取り、子どもの実態に合った授業づくりを心がけます。また、日常の子どもの様子や学びの様子を結び付け、個々の子ども理解を深めます。学校全体での授業研究が、全教師の共通した子ども理解へとつながり、一人一人の子どもへ適切に援助することを可能にします。

学校全体で
子ども理解を
深める

1 各教科等における学習活動が成立するために、一人一人の児童生徒が落ち着いた雰囲気の下で学習に取り組めるよう、基本的な学習態度の在り方等についての指導を行うこと

学習場面への適応

2 各教科等の学習において、一人一人の児童生徒が、そのねらいの達成に向けて意欲的に学習に取り組めるよう、一人一人を生かした創意工夫ある指導を行うこと

「育てる」生徒指導

学習指導（授業）における生徒指導

自己指導能力
を育成する

指導に際しては次の3点に特に留意する

- 児童生徒に自己存在感を与えること
- 共感的な人間関係を育成すること
- 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること

『生徒指導提要』（2010、文部科学省）を参考に作成

「学び合う」学習指導

「育てる」生徒指導

学び合いの「場をつくる」ことは

座席配置、学習形態などを工夫して、自然に「聴き合い」「学び合い」「関わり合い」が生まれる場をつくるのが大切です。「聴き合い」では、教師自らの聴く姿勢が大切です。

「居場所」をつくること

学び合いの場は、互いの存在を感じ合うことで一人一人の「居場所」を生み出します。「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」「自己決定の場を与える」ことが可能になる場をつくります。

学びを「つなぐ」ことは

教師が「教える」のではなく、ペアやグループなどの関わりの中で、子どもが互いに「学び合う」時間をつくります。教師は、一人一人の子どもが学びに入っているかを見取り、教材や集団とつなぐことで、学びを促進していきます。

関わりを「援助」すること

子どもは、相互交流で進められる学び合いの中で人との関わり方を学び、自ら課題解決を図る態度を身に付けます。教師には、その援助者としての関わりが必要です。

「学びの姿」を語り合うことは

個々の子どもの学びの姿から実態に合った課題設定、教材開発等を行い、子どもたち一人一人にとって学ぶ価値のある授業を目指します。積極的に授業を公開し合い、学校全体で授業改善に取り組みます。

「あるがまま」を受け入れること

学び合いでは、学年や学校全体がチームとなって、子どもたちの姿を見取り、援助を行います。「そうせざるを得ない」子どもの気持ちを押し量りながら一人一人の理解を深め、その実態から必要な援助を考えます。

「学び合いを促進する教師の関わりについての研究 ーなぜ、あの子が学びに入れたのかを探るー」

【紀要編】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h23/11-03kiyo.pdf>

【リフレット編】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h23/11-03leaf.pdf>

研究委員会

指導助言者

佐藤 暁 岡山大学大学院教育学研究科教授

研究協力校

岡山市立岡輝中学校（平成23年度）

研究協力委員

西村 誠博 岡山市立岡輝中学校教諭

久谷理恵子 岡山市立津島小学校教諭（平成22年度）

研究委員

常本 直史 岡山県総合教育センター生徒指導部長

岡本 邦尚 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事

野崎 誠二 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事（副参事）

赤木陽一郎 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事（主任）

大久保三月 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事

竹内 悦子 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事（平成22年度）

（現 岡山市立福田小学校指導教諭）

橋本 淑子 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事（平成22年度）

（現 津山市立津山西中学校養護教諭）

平成24年2月発行

編集兼発行所 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11

TEL(0866)56-9101(代表) FAX(0866)56-9121

URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>

E-MAIL kyoikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ 生徒指導部 TEL(0866)56-9105

Copyright © 2012 Okayama Prefectural Education Center